

令和6年度第1回小田原市卸売市場審議会 水産部会 会議録

日 時：令和7年2月6日（木）午前10時00分から午前11時00分まで

場 所：小田原市公設水産地方卸売市場 2階 水産海浜課会議室

出席者：別紙名簿のとおり

事務局：内田課長、内田係長、一戸主事、久保寺主事、松井会計年度任用職員

事務局である水産海浜課内田係長の進行により、第1回小田原市卸売市場審議会水産部会を開会し、引き続き、出席者及び事務局職員の紹介、配布資料の確認後、会長が選出されるまでの間、議事進行役を内田課長が務め、議題の審議が進められた。

【議題】

（１）会議の公開・非公開について

初めに、議題の「（１）会議の公開・非公開について」審議が行われ、非公開とすべき事項がない旨確認が行われた。その結果本水産部会は、全て公開と決定され、内田課長より傍聴者の確認を求められ、傍聴者がいないことが確認された。

（２）部会長の選任について

続いて、議題の「（２）部会長の選任について」、審議会委員から事務局に対し、事務局（案）の提案が求められ、事務局から部会長を中川委員とする案が提示された。

異議なしの声により事務局から提示された案が承認され、中川部会長が決定した。

中川部会長のあいさつ後、内田課長から中川部会長に議事進行役が移り、審議が再開された。

（３）水産市場再整備基本構想（案）について

続いて、議題の「（３）水産市場再整備基本構想（案）について」、事務局から説明に入る前に、審議会規則第7条により関係者として、基本構想策定支援業務の受託者である（一財）漁港漁場漁村総合研究所の担当者の出席を提案した。

中川部会長より、委員に関係者の出席について確認が行われ、異議なしの声により、関係者の出席が認められ、引き続き、事務局より関係者の紹介及び、議題の説明が行われた。

なお事務局説明の後、中川部会長の進行の下、審議が行われ次の事項が決定した。

- ・水産市場再整備基本構想検討会議を設立して検討を開始する。

※ワークショップ及び個別ヒアリングについては、各団体から推薦された検

討会議の委員がリーダーとなり参加メンバーの人選及び検討を進める。

- ・新市場はコンパクトで効率の良い施設規模・機能性を目指すこととする。
- ・検討にあたっては、卸売市場の再整備が目的であることを事務局が再度認識し、観光交流など付加機能に焦点を当てた検討が主体とならないようにコントロールすること。
- ・事例視察先については銚子漁港第3卸売場とし早期に視察を行う。
※2分割段階施工時における施工中の課題、現場の動き（物の流れ）、ICTの導入状況などを中心に視察する。
- ・ヒアリングやワークショップによる検討を進めるにあたり、その検討の叩き台となる資料作成については、卸売人である（株）小田原魚市場と早期に調整を行い、それをもって関係者との調整に入る。

＜各委員から主な質疑は次のとおり＞

ア 今後の進め方について

（瀬戸委員）

2分割段階施工とはどういうものか。

（内田係長）

分割施工とは、再整備にあたり仮設市場を建設する代替地がないため、すべてを取り壊し、一括建替えするのではなく、市場を運営しながら例えば半分を取壊して建替え、その後に残りの半分を取壊して建替え、完成させるもの。

（高橋委員）

資料4（5）で、過去の審議の中で出た基本的な考え方から抽出して整理し直すということだが、基本的には大きく変わらないという考えでいいのか。

（内田係長）

まずは、平成27年度から積み上げた検討経過や、ヒアリングで出された意見を整理し、それを生かしていく。ただし、令和元年度に検討した施設計画の規模や事業費が非常に過大という指摘を受け、新たな施設の将来像について見直していきたいと考えている。

（中川部会長）

漁村総研に伺うが、視察先として銚子漁港第3卸売場を選択した理由は何か。

（漁村総研）

まずは本水産市場で検討された分割施工と同様に、2分割段階施工の実績があること、加えてICT技術の導入が進められた点などから、今後、市場が持つ機能を検討していく中で参考になると考え選定した。

（中川部会長）

2 分割段階施工の参考事例としては銚子漁港第 3 卸売場は非常に良いと考える。視察の中で参考になる点と課題となる点を明確に分けていただければと思う。

（米山委員）

HACCP（以下「ハサップ」という。）対応について、完全閉鎖型の沼津魚市場も施設計画の当初に比べて取扱量が減り、施設の維持に苦勞していると聞いている。本水産市場でも、当初は豊洲市場を参考とした検討を進めてきたが、改めて施設を簡素化する方向へ進んでいることは共通認識として持っておきたい。

（中川部会長）

ここ 10 年ほどハサップという言葉が一人歩きしているが、完全ハサップ（水揚げから出荷までの一貫した衛生管理を行うもの）を目指すことは現実的ではない。市場の売場や荷さばき所のみに限定したハサップ対応を目指していくべきである。

（古川委員）

食品衛生協会内でも簡易型ハサップ（ハサップの考えを取り入れた衛生管理）で進めている。完全ハサップにすると費用がかかりすぎるため、最低限必要な衛生管理にはしっかりと対応し、機能と費用が見合うものにすべきと考える。また、地震や津波の問題についても、どこまで対応した施設とするのか、議論を進めていく必要がある。

（栗本委員）

食品衛生の観点からは安全でないといけませんが、消費者の観点からはコスト意識を持つ必要があると考える。

（山口委員）

早川の住民としては、搬出入のために待機しているトラックのエンジン音に悩まされている。車の動線も含めて考えてほしい。

（中川部会長）

銚子でも同様の問題は発生していた。入ってくる車と出ていく車の動線の流れがスムーズになるように設計していかなければならない。

（高橋委員）

小田原の市場は狭い用地に建っているため、コンパクトで効率の良い施設を

目指す必要がある。また、車の動線を含めた物流対策をしなければならないと感じている。

(中川部会長)

市場の空間イメージをどのような形にするのかを建築の専門家にアドバイスいただく機会があればよいと考える。

(中川部会長)

議題(3)ア今後の進め方については、事務局説明のとおり進めていくことでよいか。

(委員)

異議なし。

イ 検討組織とその役割について

(中川部会長)

今回の構想の主目的は卸売市場の再整備である。現在、水産市場周辺は観光地化しており地域振興にも寄与しているが、基本構想の中で議論して盛り込もうとすると本来の目的を見失いかねない。あくまでも卸売市場の再整備であることを事務局はしっかりと認識をしてコントロールしてもらいたい。

(米山委員)

これまでは関係者が一堂に会して、各々の意見を言い合っており、なかなか話がまとまらないという印象がある。事務局は、中川部会長からの意見にあったように卸売市場の再整備であることを十分に理解し、議論を絞り込んだうえで、各団体としてまとめられた意見を会議の場で求める形としていただきたい。

(中川部会長)

再整備の検討が始まってから10年余り経過しているため、事務局はタイムスケジュールを意識した議論の進め方をしていただきたい。

(瀬戸委員)

市場関係者ワークショップについてだが、グループごとにワークショップを実施していくのか。

(内田係長)

各団体ごとの3つのグループを合わせたものが、市場関係者全体のワークショップであり、全4回を予定している。まずは、ヒアリングを重点的に行い、し

っかりと議論できる資料ができた段階でワークショップを実施する予定である。

（高橋委員）

これまで検討に長い時間をかけてきたが、時間がかかればかかるほど建設費や人件費が高騰しており事業に遅れが出る自治体があることから、スピード感をもって進めていただきたい。

（古川委員）

資料4（10）の目指すべき姿を達成するために必要となる機能に「②交流・情報発信推進機能」に、市場見学などが想定されていると考えるが、売場内での見学者の動線などを、きちんと整理いただき、売場機能が阻害されない形での実施検討やルール作りをしっかりと行っていただきたい。

（中川部会長）

銚子に視察に行った際は、2分割段階施工時に、水揚げから始まって、セリや荷さばき、運搬車両が市場を出るまでの取引活動について、その問題及びその対応について確認をしていただきたい。

（山口委員）

小田原市の施策としてエリアブランディング構想があるが、それに引っ張られて市場整備に影響が出ないように進めてほしい。

（内田課長）

事務局としても肝に銘じて、スピード感を持ってやっていきたい。エリアブランディングに関して、水産市場の再整備については、その検討状況を報告するのみとなっているため進捗に影響しないと考えている。

（中川部会長）

議題（3）イ検討組織とその役割については、事務局説明のとおり進めていくことでよいか。

（委員）

異議なし。

（3）その他

続いて、議題の「（3）その他について」、内田係長より本日の議題で承認された「水産市場再整備基本構想検討会議」の設立について、各団体より会議に参加する委員を推薦いただくために、別途依頼することが報告された。

以上